

平成30年度事業計画書

基本方針

我が国の農業は、国内にあっては農業改革、農協改革、減反政策の廃止など、また、国外では民族間、地域間の争いや保護主義化が懸念される一方、特定地域との FTA（自由貿易協定）の推進が行われるなど、今後の行方が不透明な局面にある。更に、農業者の高齢化、耕作放棄地面積の拡大、人手不足などの問題により日本農業の将来像が掴みにくくなっている。他方、安全で安心な食料に対する需要の高まりがあることや自給率の向上が求められていること、そして、グローバル・フードバリューチェーンの考えの下、日本の農産物を海外に浸透させることを念頭にした国際競争力のある農業の構築が求められていることなどから、これらの流れに対応できる効率的かつ安定的な農業経営体やそれらを担う農業者の育成・確保が急務となっている。

同時に、開発途上国における収益力のある農業、また、地球環境に配慮した農業を実践するための人材育成等を目的とした支援を行なうことは、今や国際社会のリーダーとして重要な役割を果たしている我が国の責務であり、ひいては我が国における食料の安定供給にも寄与するものである。

本会はこのような状況に鑑み、我が国農業の中核的推進力となる担い手の育成、農業分野の人材を育成すること、国際貢献力、国際競争力を備えた農業経営体の確立、そして、国内外における農業者レベルの相互理解と友好親善の推進を図ることを目的として、

農業・農村青年の海外研修
海外農業者の人材育成
農業経営研究活動等

を実施し、併せて本会会員組織の連携強化及び組織活動の活性化に寄与する。

1. 会 議 (法人)

本会の定款に基づき、次の会議を開催する。

(1) 総 会

平成29年度事業の報告等を目的とした通常総会を6月に開催する。

(2) 理事会

本会の事業運営に係る通常理事会を年4回(5月、8月、11月、翌年2月)開催する。

2. 農業研修生海外派遣事業(公1)

欧米豪先進諸国における農業実習や学習を通じて、優れた農業技術、経営管理、販売技術等を修得させ、国際社会に精通した我が国農業・農村を担う人材を育成することを目的に農業研修生海外派遣事業を実施する。

(1) 国内業務

ア. 募集及び選考

研修生の募集は都道府県担い手育成主務課など関係機関の協力を得て行なう。

また、応募者に対して適格者を選ぶ選考会を行なう。

派遣先国及び募集人数は次のとおりとする。

米 国 : 70名

デンマーク : 若干名

ドイツ : 若干名

スイス : 8名

オランダ : 10名

コンビネーション(オランダ・ドイツ) : 若干名

オーストラリア : 14名

その他、海外農業研修に参加するための準備、また、日本国内で農業経験と知識の習得を目的とするアプレントイスシップ研修生の募集を行なう。応募者に対し選考は行わず国内農家に適宜配属し研修機会を提供する。

人数 : 5~10名

イ. 講 習

選考に合格した者、及び平成29年度に合格し渡航を次年度に延期していた研修生に対して事前講習及び出発時講習を実施する。

ウ. 国内農家実習

年度に関わらずアプレントイスシップ制度への希望者に対して、また、平成30年度海外農業研修生の内、農業経験が不足している者に対して国内農家実習を斡旋する。

エ. 派 遣

所定の国内講習を終えた研修生を平成31年3月にそれぞれの研修先国へ派遣する。

オ. 帰 国

平成28年度米国派遣研修生は平成30年10月に、また、平成29年度欧州派遣研修生は平成31年3月に海外での研修を終えてそれぞれ帰国する。

(2) 海外業務

本会は、米国においては米国支部職員が、また、欧州各国においては本部職員と現地各サポーターがそれぞれ現地受入機関と密接に連携して、海外研修中の研修生に対する指導・助言等を行なうとともに、現地大学等関係機関の協力を得て各種研修等を実施する。オーストラリアにおいては、本会と現地受入機関の連携・協力の元、研修生の指導・助言等を行なう。

3. アジア農業青年人材育成事業（公1）

農林水産省は、アジアの食料生産力向上のため、政府開発援助（ODA）の一環として開発途上国の農業青年を対象にした人材育成の取り組みを支援している。

本会は、アジアの農業・農村を担う人づくりを支援し、彼我両国農業者の相互理解と友好親善の増進に寄与することを目的に、農林水産省の公募事業「平成30年度アジア・アフリカ地域の農業者招へいによる実践的な農業研修」に応募し、次の事業を実施する。

(1) 農業青年人材育成事業

アセアン諸国の農業青年を我が国に招聘し、学課研修や受入農家における実践的な農業研修を通じて、安全、美味で高品質な農産物の生産、加工、販売、流通システムなどを習得させ、アジアの国々におけるグローバル・フードバリューチェーンの構築に貢献する地域のリーダー的人材の育成を行なう。

研修期間及び受入人員は次のとおり。

研修期間	受入人員	受入対象国	来日	帰国
11ヶ月	55名	アセアン諸国	平成30年4月	平成31年2月
	(15名)	タイ		
	(18名)	インドネシア		
	(22名)	フィリピン		

※マレーシアについては、同国政府の2018年度予算確保が叶わないことから、平成30年度は実施を見合わせる。

(2) 研修生フォローアップ事業

本邦での研修効果を評価するために専門家等を派遣し、帰国研修生の営農状況などの調査、帰国研修生への助言・指導を行なう。本年度はフィリピン共和国における調査を予定。

4. 欧州農業研修生受入事業（公1）

農業研修生欧州派遣国との相互交換として、欧州諸国から研修生を受け入れ、農業研修を通じて相互理解と友好親善の増進に寄与することを目的に本事業を実施する。

研修期間及び受入人員は次のとおり。

研修期間	受入人員	受入対象国	来日	帰国
1年	3名	ドイツ(2)・イギリス(1)	平成30年4月	平成31年3月
8ヶ月	2名	ドイツ	平成30年4月	平成30年12月

5. 海外農村開発支援事業（公1）

【フィリピン安全野菜生産販売技術改善プロジェクト〔(独)国際協力機構補助事業〕】

フィリピン国農業省、同国ベンゲット州地方自治体、及び長野県南牧村の協力を得て、フィリピン国内において安全野菜生産技術を根付かせるとともに、農産物の出荷・販売技術の改善を進めることで食品ロスの削減と商品価値を高めること、また、農民や流通業者、地方自治体への協力を仰ぎながら生産者～流通業者～販売業者～消費者を結ぶフードバリューチェーンの構築を実現し、以て生産者の所得向上を図ろうとするものである。

本事業は「JICA草の根技術協力（地域経済活性化特別枠）」で採択された平成28年12月から3ヶ年に亘るプロジェクトである。

6. アセアン等農業人材育成支援事業（公1）

開発途上国の農業・農村の近代化を推進するためには、将来を担う青年農業者に対し、我が国において農業技術等を修得させるなどによる人材育成が必要である。

本会では、長年培ったアセアン農業研修生受入事業の経験を下に、次の支援を行なう。

【研修生受入事業】

5. の海外農村開発支援事業のプロジェクトを定着させるため、フィリピンの FAASI International を通じて推薦されたベンゲット州の農業青年に対して、農家研修を中心とした研修を行なう。

受入人員	研修期間	来日	帰国
10名	3年間	平成28年3月	平成31年3月
13名	3年間	平成29年3月	平成32年3月
35名	9ヶ月間	平成30年3月	平成30年11月
17名	3年間	平成30年3月	平成33年3月
6名*	2年間	平成30年5月	平成32年5月
50名	9ヶ月～3年間	平成31年3月	平成31年11月以降

*日本で既に3年間の実習経験を積んだ者で、資格試験に合格し、優良実習実施者及び優良監理団体の下で更に2年間の実習を行える資格を有する者。

7. 未来の畜産女子育成プロジェクト事業（公1）

日本中央競馬会の公募事業である平成30年度畜産振興事業の助成を受けて、本年度に以下の事業を実施する。

目的：畜産業の労働力不足を改善するために女性の参画を促し、新鮮な感覚とアイデアを活かして畜産業（特に酪農）を発展させる。ジェンダーギャップ指数が高い日本で男女の意識を変える必要があり、まずは若年層の女性、つまり畜産業を学ぶ女子高校生を対象に意識改革を行い、得た知識や感覚を日本各地に広報する活動を行ってもらうことで、畜産界全体の意識改革を促し、女性の参画、活躍を促進することを目指す。

内容：全国から畜産を学ぶ女子高校生20名の参加者を募り（応募者多数の場合は選考）、畜産（酪農）が盛んで男女間ギャップが極めて少なく、女性が畜産現場で活躍するニュージーランドにおいて、引率者（農業高校教員）、メンター（女性指導者）、本会職員が同行し、夏季に約12日間の研修を行う。帰国後は、報告会での発表、報告書の提出、得た知識・経験を基に日本の畜産業への提言や女性の活躍を推し進めるための啓蒙活動を実施するとともに、参加者自らの畜産業への就業を促す。

8. 組織活動推進事業（他1）

（1）国際化対応営農研究事業

農業の国際化が進展し農産物価格の低迷などに加え、労働力不足、農業従事者の高齢化など、厳しい農業環境の中で、国際感覚に優れた農業経営者の担い手が求められている。

このため海外の農業について豊富な体験を有する海外農業研修体験者を中心に、ブロック別の営農研究会を開催する。

《開催予定県》

北海道・東北ブロック：山形県

関東甲信静越ブロック：新潟県

東海・近畿・北陸3県ブロック：石川県

中国・四国ブロック：広島県

九州・沖縄ブロック：熊本県

（2）新潟県組織アセアン研修生受入事業〔受託事業〕

会員組織が実施する事業の一部を受託し、業務遂行に協力するなどにより、組織活動を支援する。

（3）国際農友会の支援業務

海外派遣研修生OB・OGの全国組織である国際農友会の事務局業務を行なう。

9. 研修生サポート事業（他2）

国内外の農業研修生をサポートするため、次の事業を行なう。

（1）海外派遣研修生への奨学金給付（バイエルスカラーシップ）

（2）海外派遣研修生への研修資金貸付（研修生サポート資金）

（3）技術書の作成・配布

10. 情報・サービス事業（他2）

本会各県会員組織及びそれらの会員並びに関係団体等を対象に次の事業を行なう。

（1）機関紙「ニューファーマーズ」の発行

発行回数：年2回

発行部数：13,500部/回

（2）海外農業視察・研修等の企画・実施

（3）求人・求職支援（無料職業紹介事業）

（4）都道府県、関係団体、会員等への便宜供与、その他

11. 国際協力等（他2）

本会事業の充実と国際社会への協力と貢献を可能な限り高めるため、次の事項を実施する。

（1）海外関係諸機関との提携及び協力の強化等

（2）海外諸国の本会事業関係者の来訪に対しての便宜供与

（3）開発途上国の農業開発、技術協力等に関する協力活動

（4）本会の活動、事業の拡大充実のための調査・研究活動等

1 2. 国際農業交流事業推進基金の管理運営（他1）

本会及び会員組織の充実及び事業の拡充を計ることを目的に設立された国際農業交流事業推進基金について、基金管理運営委員会を設置し公正かつ効果的にこれを管理運営する。

- (1) 基金の運用
- (2) 基金運用益の活用
- (3) 基金管理運営委員会の開催

1 3. 特別会計事業

- (1) 農業研修生国際交流特別会計事業
(農業研修生の国際交流にかかわる特別会計事業)
- (2) 国際農業交流事業推進基金特別会計事業
(協会の組織活動を推進するための基金管理運営にかかわる特別会計事業)
- (3) 農業研修生サポート資金特別会計事業
(海外派遣農業研修生に対する研修資金貸付、奨学金にかかわる特別会計事業)